

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価計画書】**

堺市立津久野小学校
校長 中野 悦古

中学校区におけるめざす子ども像 自ら学ぶ姿勢を身に着け、想像力を持ちながら物事を多面的にとらえることのできる生徒（思考力） 自己の言動に責任を持ち（自己決定力）、他者への配慮を持ちながら（調整力）、人間関係において信頼を得られる生徒 生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るために、スポーツの意義を理解し、基本的生活習慣を実践できる生徒

令和6年度 重点目標 豊かな心をもち、健康で、自主的・意欲的に取り組む子の育成 ○安心・自信・夢をはぐくむ学校 ○「チーム力」を発揮し、地域とともに子どもを育てる学校 「つながる（子ども・保護者・教職員・地域がさまざまな場面でつながる）・・・安心」「つづける（生活習慣・学習習慣の形成）・・・自信」「つくる（主体的に生きぬく自分）・・・夢」

「確かな学び」の現状 ○ICTを活用した授業改善に取り組んだ成果もあり、算数の「データの活用」の問題や、国語の「話すこと・聞くこと」の正答率が高かった。 ○国語・算数ともに全体の平均正答率は大阪府と比較して高いが、国語の漢字の書き取りや、算数の（ ）を用いた式や四則計算が混合した式などで課題が見られた。 ○問題解決的な授業の改善に取り組み、児童アンケートの「授業はわかりやすいですか」という問いでは92.5%の児童が肯定的な回答をしていた。 ○自分で計画を立てた学習や、復習などに取り組む児童の割合は少なく、主体的な学びという点で課題が見られた。	「豊かな心・健やかな体」の現状 ○なかよし活動では、思いやりのある縦のつながりがある。 ○なかよし活動や各学級の実態に応じて、長縄などに意欲的に取り組めている。 ○体育館の改修工事に伴い、運動場が非常に狭く、体育館も使えないため、日常の運動量が減ることが大きな課題である。 ○新体力テストの結果から、握力・反復横跳び・20m シャトルラン・50m 走・ソフトボール投げの数値が全国平均と比べ下回っている。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認（年度途中）	達成状況（年度末）			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	学びに向かう力	中学校まで一貫した授業スタンダードを確立する	●学力向上のための津久野スタディスタンダードに学校全体で取り組む。	[津久野スタディスタンダード]の取り組みによる効果を検証する。	全国学力テストIRT 調査	年度末	○	◎	●堺市児童生徒・学習生活状況調査の結果、「授業中は学習に集中していますか」の肯定回答率が約 89%であり、津久野スタディスタンダードの成果が表れていた。	○	●情報活用能力アンケートにおいて「肯定的に評価する」との回答の割合がさらに増大するようめざしていただきたい。
			★津久野中学校と連携してタブレットの活用を中心とした情報活用能力の推進に取り組む。	児童の情報活用能力アンケートの肯定評価が7 0%以上。	児童情報活用能力アンケート	年度末	○	◎	●堺市児童生徒・学習状況調査の結果、「授業でパソコンやタブレットなどを、どれくらい使用していますか」の、週一回以上の回答率が合計約 89%であり、活用が進められた。	○	●タブレットの利用状況が活発で、子どもの取り組み姿勢に感心した。
	授業改善	算数を中心に、子どもの情意を重視した問題解決的な学習を通して、主体的に考え表現する子どもを育成する。また、家庭学習や朝の学習時間を使って基礎学力の向上をめざす。	●問題解決的な授業についての研修に取り組み、主体的に考える場を設定した授業を行う。 ●全体研修会等で、児童の課題の共有をし、改善に向けた取り組みを行う。	IRT 調査の「自分で計画をたてて勉強していますか」の肯定評価が7 5%以上。 目標に沿った研究授業をしている。	IRT 調査	年度末	○	○	●今年度の取り組みを通して、教師側の言葉かけ、授業の進め方で、児童の「自分で計画をして学習している」という意識が大きく変わった。 ●来年度はふりかえりに重点を置き、自分の学び方や学んだ内容について考える時間をとり、自分の成長を実感させるとともに、自分の学習方法を改善していける児童を育てることをめざす。	○	●家庭学習に関するアンケートでは、肯定的評価が8 0%を超えている。自学ノートは、子どもたちは頑張っており、取り組みが難しい面もあるので、これからも自主学習方法の改善をめざしていただきたい。 ●先生方は、意欲的に授業を進め、児童たちの育成・向上に尽くしておられた。
			●既習事項を定着させるための日常的な取り組み（自主学習指導、読書、家庭学習指導、朝の学習）を一年間継続して行う。	児童アンケート「家で宿題を含め家庭学習をしている。」の肯定評価が8 0%以上。	児童アンケート	年度末	○	○	●「自分で計画を立てて勉強しているか」の項目の結果が1 学期末8 6パーセント、2 学期末7 6パーセントとなっている。1 学期に比べ2 学期末は少し下がったが目標は上回った。3 学期に向けて、意識をして授業展開をしていけるよう再確認する。 ●研究授業は、児童の生活と関連した課題に向かって、児童が自力解決できるような学習計画をもとに進められていた。 ●家庭学習に関するアンケートでは、肯定的評価が8 0%を超えているが、読書に関するアンケートでは1・2 学期ともに肯定的評価6 6%となっている。	○	

豊かな心・健やかな体	心の教育	人権尊重を基礎とした教育を充実させ、豊かな人間性を育成する	●物事を最後までやり遂げる成就感、達成感を得られるようにし、自尊感情を醸成する。	「自分にはよいところがあると思う」の質問に対して肯定的評価が85パーセント以上。	全国学力テストIRT調査	年度末	○	●授業では、めあてを持ち、それを達成できているかのふりかえりを行っている。学期ごとに、生活面や学習面をふりかえる機会をもち、自分で達成できたこと、足りなかった部分を感じ取れている。道徳の授業を毎週行っている。授業で考えたことを基に、クラスの係や当番など、責任感を持ち、みんなのために何ができるかを考えて、行動するよう指導している。 ●あいさつ運動、たて割り活動、学年での仲間づくりなどの活動を通して、協力する大切さやお互いを思いやる心を育て人間関係の向上をはかっている。	●児童アンケート「学校は楽しい」の肯定的評価は84.1%と目標にはやや届かなかったが、「みんなのためにそうじや仕事をすることができる」の肯定的評価は91.2%と高く、人のために働くという精神について醸成されていると考えられる。また、「自分はやればできると思う」の肯定的評価は89.3%と高く、自尊感情については概ね醸成されていると考えられる。 ●来年度はいじめアンケートの取組や普段の生活の中で課題となっている言葉遣いについて、丁寧な指導をしていく。	○	●今後も、すすんであいさつができる児童を育ててほしい。 ●たてわり活動、委員会活動、クラブ活動など、さまざまな機会に学年を越えた交流ができ、自己肯定感や自尊感情の醸成に努めている。	
			人権尊重の精神に基づく教育活動を展開するとともに、子どもたちの主体的ないじめ防止活動を推進する。いじめアンケートを毎学期実施し、いじめの早期解決を図る。	児童アンケート「学校は楽しい」の肯定的評価が85%以上。	児童アンケート	年度末	○					
	体力向上		生涯を通して健康・安全で活力のある生活を送るために、体力づくりを大切にし、スポーツを愛する子どもを育てる。	運動量確保や筋力向上のため、授業での「サーキットトレーニング」や「なわとびカード」を使用しながら体力づくりに取り組む。	体育の授業や体育的行事を通して、子どもたちの体力ののびをみる。	全国体力・運動能力、運動習慣調査 日々の体育授業	年度末	○	●授業での「サーキットトレーニング」に引き続き取り組んでいく。「かけあしカード」を使用し、達成者を掲示することで、かけあし活動への意欲向上をはかっている。	○	○	●体育参観では、児童の意欲向上がみられた。これからも活動の内容の工夫により、さらなる児童の体力向上を図っていただきたい。
				運動が好きで、自分から進んで体を動かそうとする子どもを育成する。	「運動することが好きだ」で肯定評価80%以上。	学校アンケート	年度末	○				
地域協働	信頼される学校	学校情報の積極的な発信を行うとともに、地域の中にある学校として、地域人材の力を借りながら学校づくりを進める	学校ホームページ、校報、tetoru等を活用し、教育活動の発信に努める	学校HPを毎日更新する	実践報告	毎月	○	●HPの更新はほぼ毎日行うことができている ●地域と連携し、4年生は認知症講座、ふれあい清掃、1・2年生は昔あそび、5年生は地域学（つくの学）を行った。また、3学期も実施に向けての準備をしている。	◎	HPは、保護者アンケートで、97.1%が肯定的な回答であった。 地域とのイベントは、地域の協力のおかげですべて計画通りに行われた。 1年生と幼稚園との交流は、5つの幼稚園、こども園と行うことができた。	◎	●情報発信により、学校における実践の成果を広く知らしめることができています。 ●地域としても研究を重ね、より児童にとって有意義な学習となるよう考えたい。 ●幼小中の連携は十分にとれていると考える。
			地域人材を積極的に活用し、地域とともに歩む学校づくりを推進する	地域人材をゲストティーチャーとして招いたり、堺学に系統的に取り組んだりする	実践報告	年度末	○	●7月に小中合同の研修会を行った。また、中学校区で連携し、中学校へ安心して進学できるように、小中間の情報共有を行っている。 ●1年生が幼稚園とこども園と交流を行い小学校の様子を紹介し連携をはかった。	◎		◎	
			★保幼小の交流、小中一貫教育の推進を行う	保幼小の交流や小中相互の授業参観を行う	実践報告	年度末	○					

校長より（年度末）。

- 自分の学習方法を改善していける児童を育てることをめざし、家庭学習の習慣を身につけ、学習の基礎基本が定着し学力向上へとつなげていきます。また、基礎基本と自主学習の定着に向け、取り組みやすい課題設定の工夫をし、朝学などを利用し自らを導くよりよい学びを生み出すことができる方策を、研修部会で検討していきます。
- 本離れ、読書離れを防ぐためにも家庭と学校、地域が協力し読書の推進を行っていきます。
- 地域の皆様の見守り活動や世代間交流など地域をあげてのご支援も子どもたちの健やかな成長に大きくかかわっていると感じています。いつもありがとうございます。

学校関係者評価者から（年度末）

- HPの更新では、家庭で子どもたちと温かな会話のきっかけになっている。
- 今後のさらなる改善に期待しています。
- 「自分もできる」という自尊感情を大切に育ててほしい。